

キーワード：自分事、メディアの使い方、教科での情報モラル、小中連携

I 研究について

1 情報モラル教育に関しての学校課題

本校生徒のスマートフォン等のメディア機器の所持率は、90%以上である。反面、令和4年度の学校評価において、「家庭では、『メディアコントロール』に積極的に取り組んでいる」という評価項目では、平均2.7ポイント（上限4ポイント）で、家庭での利用制限が十分でない状況にある。それに伴い、生徒同士のSNSによるトラブルも発生しており、メディアの適切な使用と情報モラルに関する意識を高めることが課題である。このような中、毎年生徒及び保護者対象の情報モラルに関する講話等を実施しているが、年間を通じた継続的で効果的な指導体制が十分とは言えず、情報モラルの教育課程についても研究を進めている。

また、GIGAスクール構想が本格的に実施されて以来、教職員のメディア機器に関する研修会等を実施しているものの、指導に関しては不安に感じている教職員もいる。

これらのことから、本校においては、生徒がメディア機器の活用に関する一般的なルールやマナーを理解するとともに、状況に応じた適正な判断力を身に付けていくことが必要であると考え。また、教職員は、メディア機器に対する苦手意識を払拭するよう活用方法を身に付けるとともに、道徳科や学級活動を中心に生徒の実態に応じた情報モラルの指導方法を実践していく必要がある。

さらに、学校と保護者が同じ視点に立った情報モラルを生徒に指導するため、保護者への啓発を強化するとともに推進していきたい。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時 期	実 施 内 容
4月3日	第1回 校内研修「次世代のメディアリテラシー育成事業の概要」について
5月9日	第2回 校内研修「本校の情報モラル教育の進め方」について
6月28日	情報モラルアンケート①の実施（生徒・保護者）
7月18日	第1回 情報モラル講演会（教職員対象・湊小学校との合同） 講師：ふくしま情報モラル教育アドバイザー 静岡大学教育学部准教授 塩田 真吾 様
7月20日	第3回 校内研修「学習型AIの活用と学習端末の使用法」について
9月29日	湊小学校 第1回 授業研究会への参加
10月4日	校内授業研究会 第3学年 道徳科 指導助言者：福島県教育庁会津教育事務所 指導主事
10月10日	地区別研修会①（場所：磐梯青少年交流の家）
11月14日	第4回 校内研修「FCSの効果的な活用と適切な情報管理」について
11月27日	校内授業研究会 第2学年 学級活動 指導助言者：ふくしま情報モラル教育アドバイザー 静岡大学教育学部准教授 塩田 真吾 様
11月28日	湊小学校 第2回 授業研究会への参加
12月5日	情報モラルアンケート②の実施（生徒・保護者）
12月21日	第2回 情報モラル講演会（生徒・保護者対象） 講師：福島県警察本部会津少年サポートセンター 花見 好美 様
1月22日	第5回 校内研修「実践のまとめ」について
1月25日	地区別研修会②（オンライン）

II 研究の実際

1 小中連携で取り組んだこと

(1) 第1回情報モラル講演会【講師：静岡大学准教授 塩田真吾先生】

湊小学校と湊中学校の教職員を対象に「1人1台端末環境での情報活用能力としての情報モラル教育」というテーマのもと、以下の3つの観点で講演をしていただいた。

①「情報活用能力」の「情報モラル」について

「情報モラル」は「情報活用能力」の一つであり、情報機器を扱ううえでの「禁止のルール」ではなく、「**利活用する能力**」を身に付けさせていくことが重要である。

②「リスク」の捉え方と指導について

スマートフォン等の長時間使用や不適切投稿などのリスクについて、これまでの指導では、リスクがあるかどうかの「発見」と起きた場合の「対応」に関する指導が多かったが、これから大切になるのは、そのリスクを「**自分事として捉えさせること**」と「**どれくらいの危険性があるかを考えさせること**」である。

③情報モラルの指導上のポイントについて

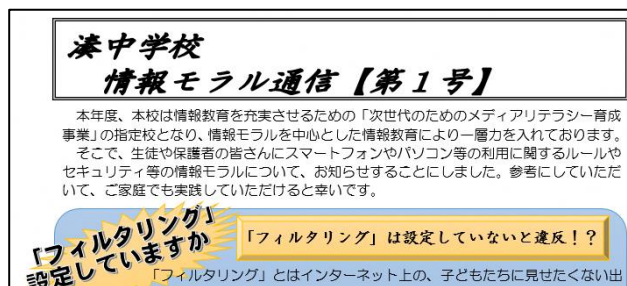
次の4つの視点での指導のポイントを助言していただき、指導に有効な教材についても紹介していただいた。

- 「コミュニケーション」のトラブルについては、トラブルへの自覚を促し、**自分事**として捉えさせること。
- 「個人情報」のトラブルについては、**リスクの見積もり力**（危機予測）を高めさせること。
- 「使いすぎ」のトラブルについては、24時間の使い方を見直し、**タイムマネジメント力**を育てること。
- 「情報モラルの時間の確保」については各教科内においても短時間でもいいので情報モラルについて指導する機会を設けること（「**GIGAワークブック**」の活用）。

(2) 各種資料や協働制作及び教材の共有

湊小学校と湊中学校が次年度から義務教育学校になることから、9年間を見通した情報モラル教育が必要になる。そのため、「情報モラル通信」を教職員対象と保護者対象のそれぞれに発行し、情報モラルに対する意識向上と啓発に取り組んでいる。

なお、湊小学校と湊中学校では、共有ドライブを作成することで、データを共有して共同編集をしたり、それぞれの学校で作成した有用な教材などを共有・活用したりできるようにしている。



2 研究授業及び校内授業研究

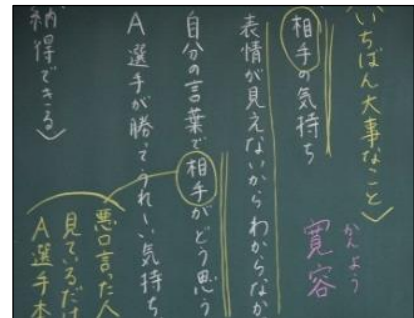
本校では、情報モラル教育の指導において、第1回情報モラル講演会での塩田先生の話をもとに、「自分事として捉えさせる」ことを重要視して研究を進めている。そこで、活用形情報モラル教材「GIGAワークブック（LINE みらい財団、静岡大学塩田研究室、共同開発）」を参考にしながら、道徳科と学級活動で研究授業を行った。

(1) 第3学年 (道徳科)

この授業の教材は、「SNS上で感情的にお互い批判し合うやり取りを通して、インターネット上の言葉の先にも顔が見えない相手がいることに気付き、適切なコミュニケーションの在り方について考えさせる」という内容である。**インターネット上でのトラブルを「自分事」として捉えさせる**ことにより、生徒自身が SNS 等に不適切な投稿をしないうための態度を育むことを目的とした授業を行った。

① **教材中のインターネット上のトラブルを自分に置き換えて考えさせる。**

SNSトラブルに関する教材を用いて「主人公の心情を自分に置き換えて考えさせる」ことにより、様々な立場で SNS を見ている人がいて、それぞれの感じ方があることを実感させた。このことを通して、相手を思いやりながら情報を発信していくことの大切さについて考えを深めさせることができた。



② **自分の日常の具体的な場면을想像させ、学んだことを自分事として捉えさせる。**

教材文での学習を踏まえて、終末場面でワークシートを用いて「自分も SNS に感情的に書き込んでしまいそうな場面」を具体的に想像させることにより、SNSトラブルを自分事として考えさせることができた。

3 自分も相手の顔を思い浮かべずに感情に任せて書き込んでしまいそうな場面を考えよう。

① どんな話題で

② 誰に

③ 何を言われた

④ 自分が書き込みそうなこと

例：好きな芸能人のこと
家族のこと
友達のこと
自分の志望校のこと

例：そのことをよく知らない人
他の学校の人
会ったことのない人

例：はかにされた
悪口を言われた
「レベル低い」と言われた

例：「よく知らないくせに
知ったようなこと言わないでくれる？」
「そっちの方がレベル
低いんじゃない？」

自分も感情に任せて書き込んでしまいそうなことを具体的に考えさせる。

自分事として考えた SNS の課題を解決する方法について考える。

④の書き込みを踏み止まるためには、どうすればいいだろう。

推し関係のことです。

その人たちのことをよく知らない人。

歌を入れた。とが言われた

どんなに苦悩しても、知らないくせに、がんばる。ア、ゴビョー。したのに。

そのペ-ジを閉じる。

③ **事後研究会による指導主事の先生からの助言**

道徳の指導と情報モラルの関係性や、自分事として捉えさせることの大切さ、今後の情報モラル教育の着眼点について助言いただいた。今後の情報モラル教育では、「**自覚を促す**」「**情報機器の積極的活用による情報モラル**」「**教科内で短時間でもいいので情報モラルを取り入れる**」「**情報モラルと教科との関連を明確にする**」の4点が大切であるとのことであった。

(2) 第2学年(学級活動)

一日の生活を記録した「振り返りシート」をもとに、自分のメディアの使い方について、他者と比較したり、睡眠や学習などにどのように影響しているか考えさせたりすることで、**メディアのより良い使い方**について考えさせる授業を行った。

① 「使いすぎ」の基準は人によって違うことに気付かせる。

他の人の振り返りシートを見ることで、様々な一日の過ごし方があることや、同じメディアの使用時間でも睡眠時間や学習時間などが人によって異なることに気付かせることができた。生徒からは「〇〇さん、睡眠時間が足りていない」などという声もあり、お互いの生活の良い点や問題点について考察しようとしていた。

また、養護教諭等から睡眠時間や家族との時間の過ごし方などの、生活の中で「欠かすことのできない大切な時間」について話を聞くことで、自分のメディアの使用がそれらにどのように影響しているか考えさせることができた。



② 自分の生活の改善策について考えさせることにより「タイムマネジメント力」を育む。

授業の終末場面で「自分事」として捉えさせるため、自分のメディアの利用の改善策を記した「メディアコントロール宣言」と、それを具体化した「スケジュール」を作成させた。これらを保護者の方にも見てもらうことで、生徒のメディアの使用時間について、継続的に家庭と連携しながら取り組んでいくことができた。

「メディアコントロールチャレンジ宣言」
氏名 _____

【目標】

- 1 趣味の時間にする
- 2 お気に入りの本を読む
- 3 テレビ観覧やSNSコミュニケーションを増やす

メディアの使い方の改善策。

具体的に、一日の使い方を考える。

～1日の過ごし方改善策!～

平日	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
すいみん																								
部活なしの土日																								

～保護者から～

早寝早起きで時間は余裕をもって行動できるように改善し、読みたいだけでなく趣味や好きなことに集中できるように頑張ってください。

③ 事後研究会による指導主事の先生・静岡大学塩田真吾先生からの助言

○塩田先生からの助言

- ・メディア等を管理するルール作りをする前に「**子ども・保護者の理想の姿(このように使っていきたい。使ってほしい)**」を共有し、その実現のためにメディアの使用によるリスクを捉え、具体的な対策方法を考えていくことが大切である。
- ・タイムマネジメントで空いた時間を「ヒマをつぶす」だけにならないようにするために、「**空いた時間でやりたいこと**」を考えさせることが大切である。

○指導主事の先生から助言

- ・お互いの生活振り返りシートを見ることで、様々な生活の在り方について知ることができてよい。
- ・2, 3人のグループのためサンプルが少なかったが、3年生の生徒のデータを用意するなどの工夫があると、来年度の受験も意識させることにつながる。
- ・養護教諭等から睡眠や家族との時間の大切さについての話があり、メディアの長時間利用が及ぼす問題点の焦点を明確にすることができ、効果的であった。

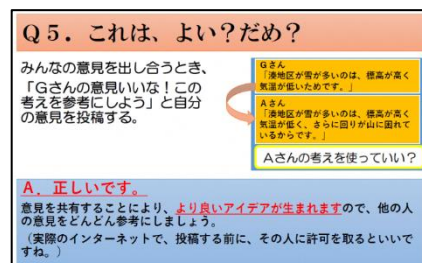
3 教科内での情報モラルの指導

本校では、教科の中で情報モラルの観点も取り入れた授業研究をしている。**教科の指導を第一にして**、その授業で関わる情報モラルの要素（生徒の作品に関する「著作権」など）について**短時間で指導すること**を実践してきた。

(1) 数学科での実践

意見交換で用いる「Google Jamboard」を使用する際の「ルールやマナー」について、**導入場面の5分程度**でQ&A形式で確認した。

実際の活用場面では、ルールやマナーを意識して活動しており、共有データの扱いに関する意識が高まっていた。一方で、「誤って他の人の意見を消してしまった」など、ルールやマナーを守るためのスキルの不足も見られ、情報モラルを実践するための技術的な指導も必要であることが分かった。



(2) 音楽科での実践

生徒が作曲した曲のデータについて、**終末場面**で「皆の作品をインターネット上に投稿していい？」と問いかけることで、**作品には「著作権」がある**ことを指導した。

他者の作品の扱い方や、自分の作品の権利の守り方などについて、生徒自身が作成した作品をもとに話をすることで、自分事と捉えさせつつ、著作権の大切さを実感させることができた。

(3) 理科での実践

授業で災害の危険性について学習した際、**終末場面**で実際の災害のときに問題となった**フェイクニュースをとりあげる**ことで「**情報の信憑性**」を指導した。

インターネット上にはうその書き込みや根拠のない情報などがあり、それらの信憑性を見極めて情報を主体的に選択することが大切であることを「NHK for school」の動画資料を活用して指導した。生徒は、授業で学んだ災害の危険性から「フェイクニュースに惑わされては困る」ということを理解し、情報の信憑性について考えを深めていた。

4 その他の取り組み

(1) 第2回情報モラル講演会【講師：会津少年サポートセンター 花見好美 様】

生徒・保護者対象に「**親子で考えるネットとの付き合い方**」というテーマのもと、SNSなどの**ネットを通じたトラブルの危険性や未然防止**のための対策について、動画や具体例をもとに講話していただいた。

生徒は、講師の方の問いかけに対して、自分の情報機器の使い方について振り返る場面もあり、トラブルが自分の身近にあることを感じながら話を聞いていた。トラブルを回避するためには「親子でルールを決めること」「ネットで知り合った人とは会わない」「ネット上に個人情報を書かない」などの対策が大切であることを感じていた。

課題としては、参加した保護者の数が少なかったことがあげられる。授業参観などの保護者が参加しやすい日程調整をすることや、保護者の方に聞いていただきたい重要な講話であることを周知して、積極的参加を呼び掛けることが大切である。

(2) 校内研修による教員のスキルアップ

7月にドリル教材の学習型AI「Qubena」、11月にGoogleの「共有ドライブ」と「パソコン版ドライブ」、12月に「Google チャット」の活用研修を行った。ICT活用に苦手意識がある先生も、共有ドライブやチャットなどのGoogleの機能の便利さを実感することで、ICT機器を活用する機会が増えてきている。また、Qubenaによる生徒への課題配信も毎週計画的に行うようになり、生徒の学力向上に生かしている。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

○ 自分事として捉えさせる課題設定

自分がしてしまいそうなこと（SNS の不適切投稿、など）を具体的な場面を想像させることで、情報モラルに関する課題を自分事として考えさせることができた。

○ タイムマネジメント力の育成

メディアの使い方について、生活振り返りシートをもとに生徒同士の生活の良い点や改善点を話し合うことで、メディアの使い方を見直すきっかけを作ることができた。

○ 教科内での情報モラルの指導

授業の導入場面や終末場面に、短時間で情報モラルについて指導することで、教科の指導を妨げることなく、具体的な活用場面での情報モラルを指導できた。

○ 情報モラル講演会の実施

年度初めに教職員向けの情報モラル講演会を実施することで、情報モラルの指導の方向性を学校全体で共有するとともに具体的な手法を学ぶことができた。

○ 保護者との連携

情報モラル通信による情報モラルの意識向上を図ったり、情報モラルに関する生徒のワークシートを保護者にも見てもらったりすることで、家庭との連携を深めている。

2 課題

● 発達段階・教科横断的な視点も取り入れた系統的な指導

情報モラルについて「どの内容を」「いつ」「どの教科で」行うのかを明確にして、9年間を見通した教科横断的で系統的な指導ができるような情報モラルに関する教育課程を作成していく必要がある。

● 情報活用スキルの指導

情報モラルに関して正しい知識をもっていたとしても、それを実践するためには情報活用スキルも必要であり、それらの指導も併せて行っていく必要がある。

● 家庭との連携の強化

情報モラルに関する知識や意識が十分ではない家庭もあるため、保護者が正しい情報モラルについて知る機会を作り、情報モラルについての家庭内指導力の向上を図ることで、学校と家庭が一貫した指導になるようにしていく必要がある。

【引用文献・参考文献・参考 URL】

- ・ 文部科学省（2017）。「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」。
- ・ 文部科学省（2018）。「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」。
- ・ 塩田真吾・橋爪美咲・香野毅（2020）。「特別な支援を要する子どものためのネット・スキル・トレーニング」.静岡学術出版。
- ・ 堀田和秀・津田泰至（2022）。「『禁止・制限』より『安全な使い方』を教える! GIGA スクール時代の『ネットリテラシー』授業プラン」.学芸みらい社。
- ・ 藤川大祐（2022）。「考えよう! 話しあおう! これからの情報モラル（全 4 巻）」.偕成社。
- ・ 樋口綾香（2022）。「『自ら学ぶ力』を育てる GIGA スクール時代の学びのデザイン」.東洋館出版社。
- ・ 坂本旬・豊福晋平・今度珠美・林一真・平井聡一郎・芳賀高洋・阿部和広・我妻潤子・たきりょうこ（2022）。「デジタル・シティズンシップ プラス: やってみよう! 創ろう! 善きデジタル市民への学び」.大月書店。
- ・ 坂本旬・芳賀高洋・豊福晋平・今度珠美・林一真（2020）。「デジタル・シティズンシップ: コンピュータ 1 人 1 台時代の善き使い手をめざす学び」.大月書店。
- ・ 佐々木潤（2022）。「個別最適な学び×協働的な学び×ICT入門」.明治図書出版。
- ・ 一般財団法人 LINE みらい財団。「GIGA ワークブック」。
<https://line-mirai.org/ja/events/detail/68>（参照 2024-2-20）。
- ・ 一般財団法人 LINE みらい財団。「SNS フート（情報モラル編）」。
<https://line-mirai.org/ja/events/detail/68>（参照 2024-2-20）。
- ・ 一般財団法人 LINE みらい財団。「指導計画サポートブック 2023 年度版」。
https://d.line-scdn.net/stf/linemiraicorp/ja/events/GIGAWB_SupportBook_2023.pdf
（参照 2024-2-20）。